

予算	款	項	目	決算書
	6	3	1	226 頁

目名
農地費

事業名称
農道維持管理事業

### 1. 概要

目的	農道の適正な維持管理により、常に農耕車両及び一般通行車両等通行者が安全に通行できる状態を確保する。	対象	受益者及び一般利用者
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農道維持管理事業                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・農道除草作業委託事業・・・市が管理する農道の除草作業、側溝清掃作業等を豊肥地域シルバー人材センターへ委託して実施（広域農道 3路線、農免農道 3路線、延長L=29,086m） 2,992,500円</li> <li>・農業水利施設管理道路管理委託事業・・・石場ダム管理道路の除草作業、側溝清掃作業等を野津土地改良区へ委託して実施 600,000円</li> <li>・農道管理事業・・・重機借上料 / 道路敷き内の崩土除去作業を実施(9件) 1,303,121円</li> <li>・農道台帳管理業務負担金 / 県当事業で整備した農道の台帳管理業務に対する負担金 100,000円</li> <li>・農道補修事業・・・地元からの要望、定期的な点検パトロールにより把握した補修箇所の対策工事を実施(5件) 1,690,500円</li> </ul> </li> <li>○原材料支給事業                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料支給事業・・・受益者が実施する農業用施設の補修、改修等に必要な材料を支給(56地区) 14,752,879円</li> </ul> </li> </ul>		

臨/経	細事業名称	事業内容 (主な経費等)		予算現額 (千円)	決算額 (千円)	財源内訳				評価
						国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	農道維持管理事業	農道除草作業委託	委託料	7,319	6,697				6,697	3
経常	原材料支給事業	原材料支給	原材料費	15,000	14,753		14,000		753	3
計				22,319	21,450	0	14,000	0	7,450	

## 2. 指標設定

成果指標	指標名	農道の維持管理	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	—			総合計画/後期基本計画において、基本施策(4-1-2)目標達成のために重要な施策となっている			
活動指標	指標	a	維持補修額	b	c	d		
	数値	目標	—	目標	目標	目標		

## 3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
農道の維持管理		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 維持補修額	千円	1,780 千円	210 千円	1,690 千円
b		—	—	—
c		—	—	—
d		—	—	—

## 4. 課題と対応

課題
広域農道、農免農道等、幹線的な農道は通行者も多く定期的な維持管理特に春から秋の除草作業が安全な通行確保に欠かせない状況である。
対応（改善点等）
国・県の補助事業による防草対策事業の検討。

## 5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

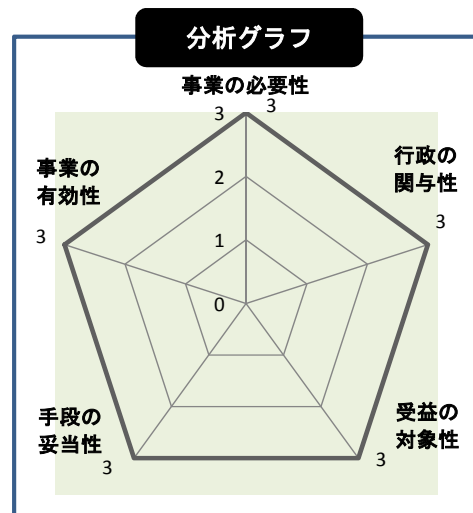
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		25,593	18,773	21,450	22,009
うち経常		3,793	4,366	7,450	7,009
財源内訳	国費				
	県費	8,000			
	市債	13,800		14,000	14,200
	その他				
	一般財源	3,793	18,773	7,450	7,809
うち経常		3,793	4,366	7,450	7,009
事業費に係る人件費		2,580	2,576	6,538	5,944
事業費に係る人役		0.60	0.60	1.50	1.34

## 6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
県営事業で整備された農道が、随時大分県から豊後大野市へ管理移管される予定である。管理移管後は、市が農道として管理するため。

## 7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 通行者の安全な通行を確保を目的に実施する維持管理事業の必要性は高い(公共性)
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 農道管理者は地元であるが、一定要件農道については市が管理者である
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 対象者は農道の通行者であるため、公共性は高い
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 異常気象発生後の点検はもとより、定期的な点検/パトロールによる補修箇所への把握は重要である
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 対策工事の実施により、目標である通行者の安全な通行が確保されていると判断する



## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	限られた予算の中で、効果的な事業に努めること。